

# 文献の探し方(3～4年生向け)

授業名

日付

# この講習の到達目標

- テーマに応じて情報収集の計画を立てることができる
- CiNii Articlesを使って学術論文を検索できる
- 見つけた論文を入手できる
- 論文の参考文献リストから文献を入手できる
- 文献管理ツールの機能を理解し活用できる

# 本日の内容

- ◇情報収集の計画を立てる
- ◇CiNii Articlesを使った学術雑誌論文の検索
- ◇見つけた文献を入手する方法
- ◇文献管理ツールについて

# 図書館を活用して研究をする

研究テーマの選択

図書館でお手伝いします

▼  
事前調査 — テーマを分析し、情報収集の計画を立てる

▼  
文献の探索 — 文献データベース等

▼  
文献の入手 —

▼  
文献の整理 — Mendeley, Endnote Web

▼  
収集した情報をもとに卒論・レポートを作成

# 研究テーマを分析、情報収集の計画を立てる(1)

1. テーマについて、概要を知り、これまでの研究の動向を調査・分析する

ユニークなテーマか？ 類似研究や同じテーマの研究がすでになされていないか？

「〇〇について調べたい」  
⇒何がわかっている、何がわかっていないかを把握する

# 研究テーマを分析、情報収集の計画を立てる(2)

## 2.何を使って探すのか？

### ●調査方法

- ・概要を知る 参考図書(事典・ハンドブック等)、一般図書
- ・研究の最新の動向を知る 学術雑誌論文

### 【言葉や概要を調べる】

- ・百科事典
- ・JapanKnowledge
- ・分野別の専門事典・ハンドブック

### 【図書・雑誌を探す】

- ・島大OPAC
- ・CiNii BOOKS
- ・NDL-OPAC ...

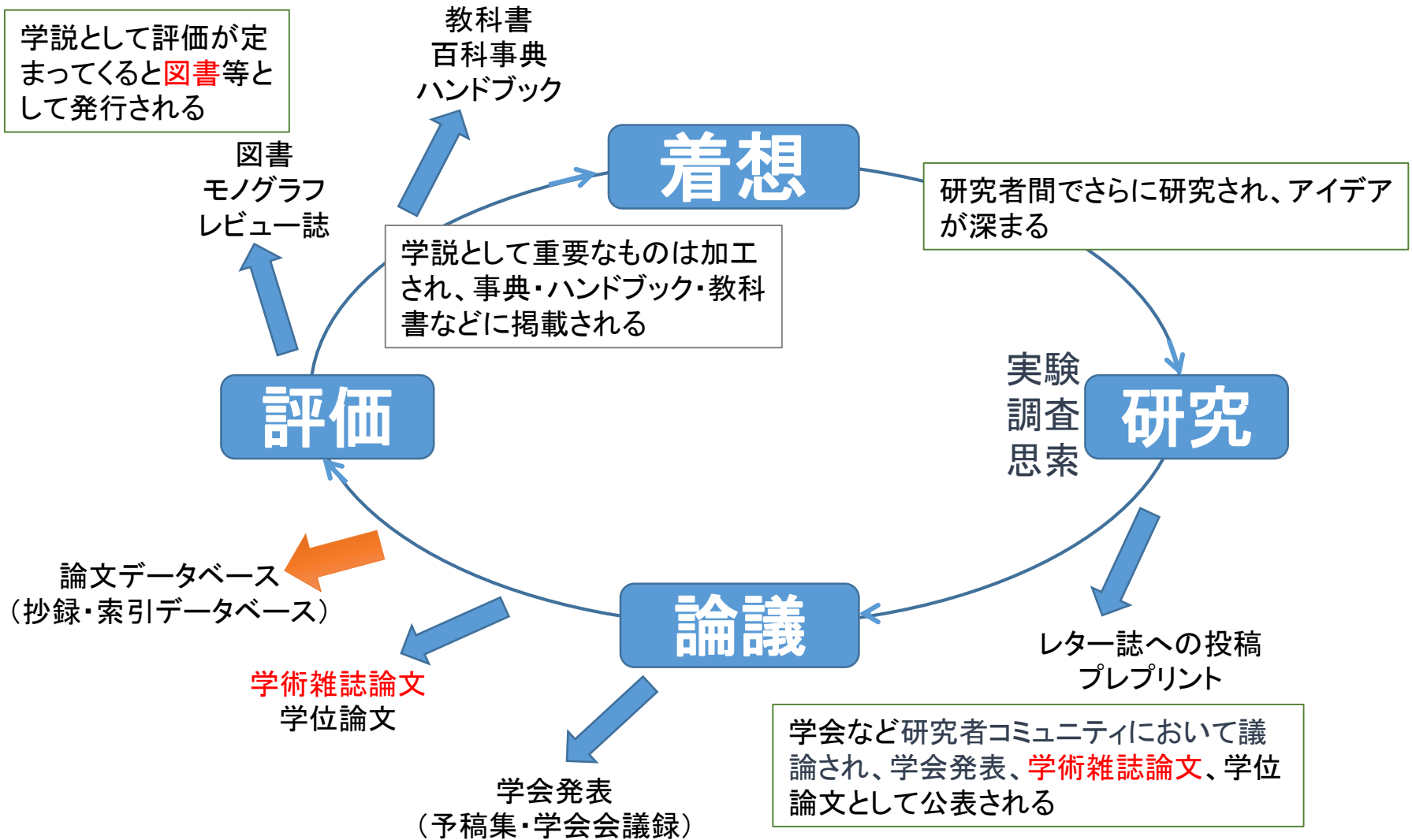
### 【論文を探す時】

- ・CiNii Articles(日本の論文)
- ・Web of Science(海外の論文) ...

### 【新聞記事を探す時】

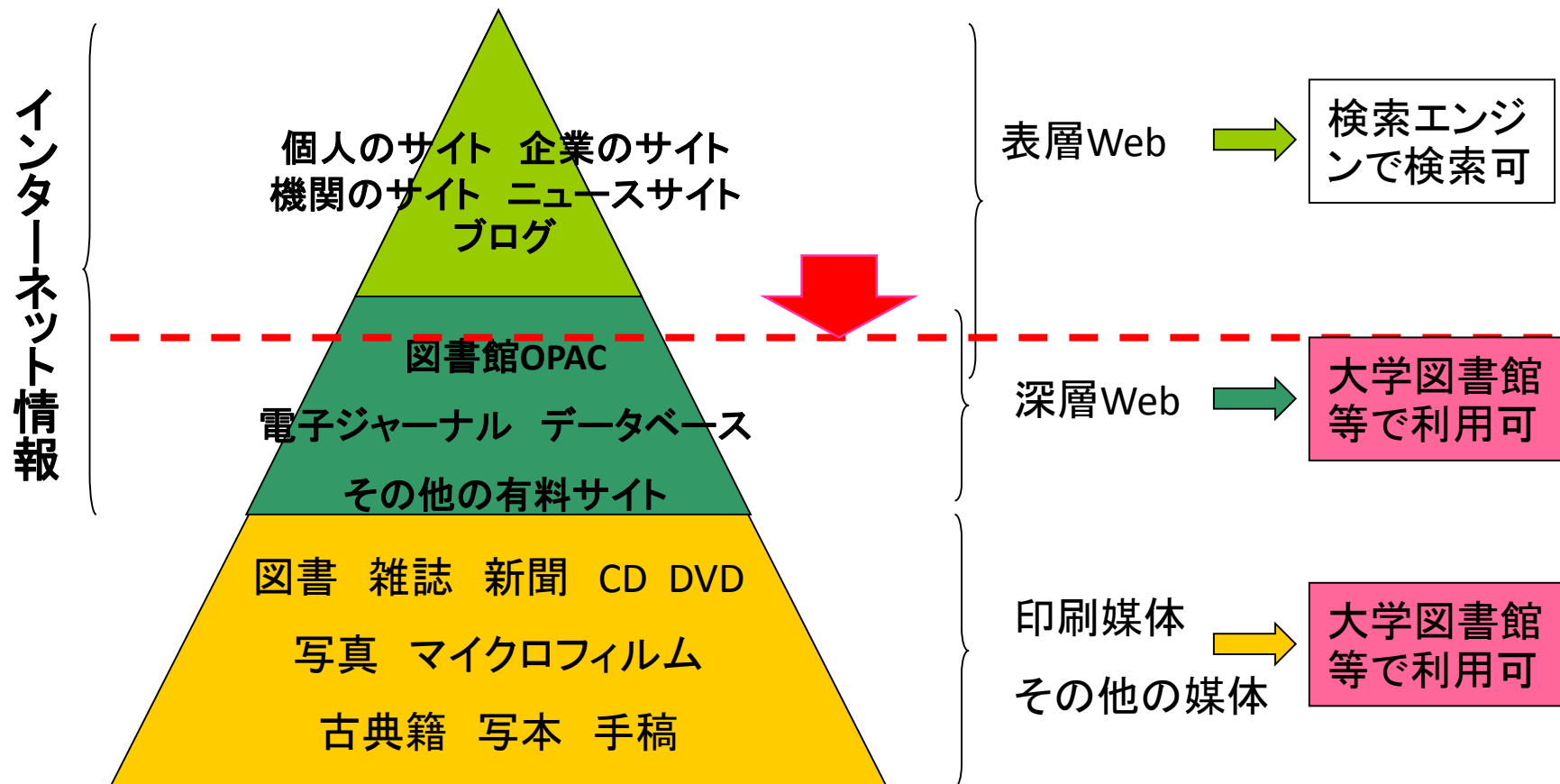
- ・朝日新聞(聞蔵II)
- ・読売新聞(ヨミダス)
- ・日経新聞(日経テレコン)
- ・新聞原紙

# 学術情報の生産と流通サイクル



# 情報資源の全体像

## ・ 大学で利用できる情報資源の全体像





# 全分野の日本語の論文を検索するときの基本的ツール

## CiNii Articles

- 提供機関：国立情報学研究所
- 収録範囲：1946-現在(自然科学系は1975-現在)
- 学術雑誌を中心とした約16,000誌の論文・記事データを提供
- 直接本文を入手するためのリンクがある
  - ・電子ジャーナル本文へのリンク
  - ・学術機関リポジトリへのリンク
  - ・学協会誌や紀要の一部本文全文あり

# CiNii Articles を使ってみよう(1)

- ・まずは使ってみましょう

課題：次の文献を検索してみよう

「火山灰が作物に与える影響について」

どのような結果になったか確認する。

## CiNii Articles を使ってみよう(2)

課題: 次の文献を検索してみよう

「我が国の環境汚染について」

# 論理演算子を使って効率的に検索する(1)

データベース検索では、入力した複数の検索語の組み合わせを論理演算子によって処理し、結果を出力する

➤ 論理積 (AND検索)

A AND B

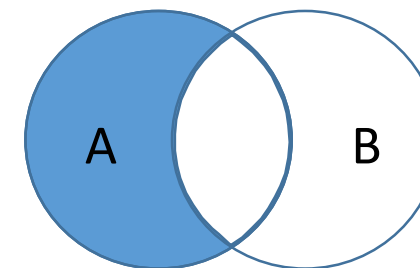
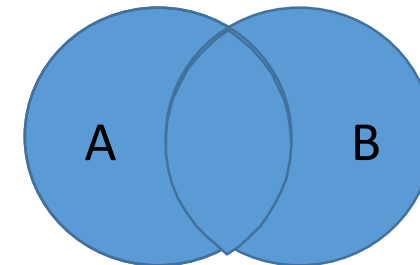
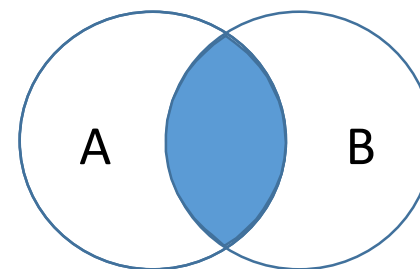
➤ 論理和 (OR検索)

A OR B

➤ 論理差 (NOT検索)

A NOT B

ベン図



● 検索結果が多すぎるときどうするか？

・別なキーワードを追加・不要な言葉を外す (AND, NOT検索)

● 少なすぎるときは？

・同じ概念の言葉を加える (OR検索)

・広い概念の言葉に変える

# 論理演算子を使って効率的に検索する(2)

論理演算子を使って、再度検索してみよう  
「我が国の環境汚染について」

※モレ・ノイズの少なく効率的に検索結果を得るためのヒント

⇒「我が国」を類義語・表記のゆれも考えて検索

⇒「環境汚染」を同義語「公害」でも検索

# 論理演算子を使って効率的に検索する(3)

## 解答例

「我が国の環境汚染について」

⇒検索式: 我が国 AND 環境汚染

⇒検索式: (我が国 OR わが国 OR 日本) AND 環境汚染

⇒検索式: (我が国 OR わが国 OR 日本) AND (環境汚染  
OR 公害)

# 論理演算子を使って効率的に検索する(4)

課題: 次の文献を探してみよう

「鉄筋コンクリートの腐食の評価について知りたいが、そのうち塩害の文献を除いて検索したい」

※ 論理演算子を使ってみよう

◎ 本文が閲覧できるものを選び、その論文の参考文献を読む。  
キーワードなどヒントになるものに注目する

# 文献情報の読み方(1)

## —参照文献の書き方SIST02—

- SIST(科学技術情報流通技術基準)
  - 科学技術情報の流通を円滑にするために設けられた基準
  - 「抄録の書き方」「参照文献の書き方」「雑誌名の表記」など14の基準(SIST01～SIST14)が制定されている
  - <http://sist-jst.jp/index.html>
- 参照文献の書き方(SIST02)
  - 「技術論文の末尾に参照文献を記述する際に、記述する個々の文献について、書誌的情報として、何を選定すべきか、選定したものの表記法、記載順序、句読点使用法等についての原則と指針を示したもの(電子文献を含む)」



# 文献情報の読み方(2)

## —参考文献の記載例—

### 参考文献

- 1)名和小太郎. サイバースペースの著作権. 東京, 中央公論社, 1996, 194p
- 2)曾根原登. “2 デジタル流通システムと著作権”. 著作権の法と経済学. 東京, 勁草書房, 2004, p.29-53
- 3)藤田節子. 国内科学技術系学会誌の投稿規定の分析 : 参照文献の記述, 著作権を中心として(1). 情報管理. Vol.48, No.10, 2006, p.667-676
- 4)社団法人日本化学会. 当会論文誌の著作権の帰属について. <http://www.csj.jp/journals/journal-copyright.html>(accessed 2006/3/8)

# 文献を手に入れるための3つの方法

- 1) CiNiiなどで公開されていればそのままダウンロード  
⇒全文へのアイコン、PDFがあるか？
- 2) 公開されなくても島大図書館が所蔵していれば図書館でゲット  
⇒島大OPACで学内にあるかを確認(図書か雑誌か)
- 3) 1) 2) どちらもないが、他大学の図書館が所蔵している。・・・取り寄せが可能(有料)  
⇒島大MyOPACにログインし文献複写を申し込む

# では、やってみよう

課題：次の検索をして入手方法を考えてみよう

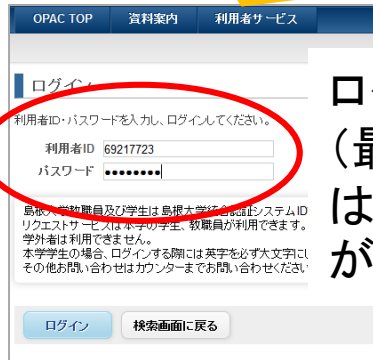
「アメリカにおける格差社会」に関する文献

- ① 本文を開く(オープンアクセスアイコン)
- ② 電子ジャーナル・島大OPACを検索
- ③ 文献を申し込む(MyOPAC)→流れを次のスライで説明

※申し込みをする場合MyOPACにログインします。

IDとパスワードが必要となります

# MyOPACから文献を取り寄せる



ログインには学籍番号  
(最初のアルファベット  
は大文字)パスワード  
が必要です



プルダウンメニューより選ぶ

必要事項を記入して「送信」

# データベース検索～文献入手までの工程を「ShimaneLINKS」がナビゲートします

▼ データベース検索から文献入手を簡単にナビゲートしてくれるのが・・・

ShimaneLINKS



アイコンの1例

ShimaneLINKSは、論文本文やOPACの学内所蔵情報へナビゲートするツール。論文本文や学内に所蔵がない場合は、学外への文献複写・現物貸借の申込みができる。

# 学外からの文献取り寄せ料金

## ▼文献複写(コピーを取り寄せる)

- 1件あたり料金: 枚数 × 単価(モノクロ¥30～50程度/カラー¥50～150程度) + 送料
- 取り寄せ所要日数: 1週間程度

## ▼現物貸借(資料そのものを借りる)

- 1件あたり料金: 送料(¥500～1000) × 2(往復)
- 雑誌、新刊、劣化の進んだ古い資料、辞書/事典など参考図書類は貸出不可が多い
- 館外持ち出し不可、など条件付きの場合もある。
- 取り寄せ所要日数: 1週間程度

# 文献管理ツールについて

## 【特徴】

- データベースで集めた文献を保存できる
- 自分で作成したパワー資料も保存しておくことができる
- 収集した文献を研究者仲間と共有できる
- 参考文献リストを自動的に作成できる

**文献管理ツール**は、自分で文献情報をコピーする手間なしに効率よく収集して管理でき、なおかつ、最後の参考文献リスト作成も自動でおこなうことができる。(参考文献リスト作成を自動で行うには、「Plugin」をインストールする)

## ※ 無料のツールです

**「Mendeley」** (Web版・デスクトップ版があり同期することもできる)

## 補足) 電子資料の学外利用について

- ・ 本学が契約している電子リソースの一部は、学外でも利用できる

⇒リモートアクセス(EZproxy)

※ ただし、卒業後は利用できないので注意。

▼ 詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/menu.asp?mode=l&id=2251>